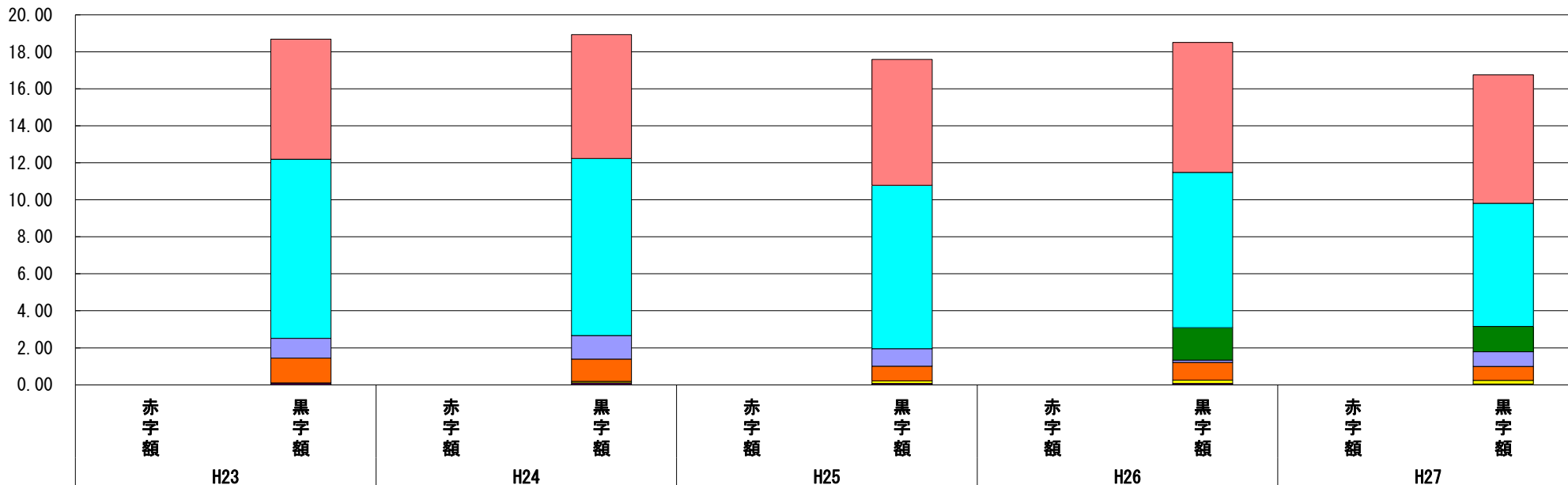


(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

平成27年度

長野県下諏訪町

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

会計	年度	H23	H24	H25	H26	H27
一般会計		6.49	6.69	6.80	7.03	6.94
水道事業会計		9.67	9.57	8.84	8.39	6.65
下水道事業会計		-	-	-	1.75	1.37
温泉事業特別会計		1.08	1.28	0.94	0.13	0.79
国民健康保険特別会計		1.34	1.21	0.80	0.96	0.76
交通災害共済事業特別会計		0.03	0.08	0.13	0.18	0.19
駐車場事業特別会計		0.07	0.09	0.07	0.06	0.04
後期高齢者医療特別会計		0.00	0.01	0.01	0.01	0.01
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

分析欄

全ての会計において黒字であり、実質赤字比率はない。

【水道事業会計】 連結実質赤字比率においては黒字となっているが、水道事業の平成27年度の経常収支は赤字であり、今後も人口減少などの要因で給水収益が減少していくことが予想され、施設更新に係る費用も必要となってくることから厳しい財政状況である。現在の料金水準や企業債水準の妥当性を確認しながら、更新に必要な財源確保方を検討していく必要がある。

【下水道事業会計】 前年度に比べ0.38%の黒字の減となっている。人口減少などにより使用料収入の減少が見込まれる中、老朽化の進んだ施設の更新等に多額の資金投資が必要となってくることから、財源確保のための経営改善を行い、計画的な更新を進めていく必要がある。

【温泉会計】 前年度と比べ0.66%の増となっているが、温泉利用者の減少に加え、温泉管の漏湯事故に伴う修繕費や、施設の老朽化に伴う更新費に多額の費用を必要とし、厳しい財政状況が見込まれることから、効率化・経営健全化のための取り組みが必要となる。

【一般会計】 普通交付税の増に伴い標準財政規模が増となったことから比率が低下した。今後、大型事業実施に伴う公債費の増が見込まれるため、状況を注視していく必要がある。

※平成28年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。